

主の祈りの第二の祈りの「御国が来ますように」と祈るなら、一人ひとりの心と生活に神の国が来て、神様のご支配が広がるようになるなら、神様のみこころが行われていくでしょう。けれども、人の罪のゆえに、みこころが歪められ、みこころにかなわないことが行われている現実があります。ですから、「みこころが…行われますように」と祈るのです。

1. みこころが行われますように

「地」は私たちが生きているこの世界、目に見える世界のことであり、「天」は神様がおられるところ、目に見えないところです。「地」には時間、空間の限りがありますが、「天」は永遠、無限です。「地」は人々の罪が満ちており、その影響が様々なことにありますが、「天」では罪がなく、きよい神様のみこころが完全になされているのです。天においては神様のみこころが十分に行われています。一方、この地上では神様のみこころが行われていない現実があります。その現実直面して、クリスチャンは悲しみ、心を痛めます。そして神様のみこころがこの地上でも実現することを願って祈るように導かれます。

「みこころが行われますように」との祈りには、二つの意味があると思います。一つの意味は、神様が聖書において示しているみこころを、私たちが行うことができますようにと神様の助けを祈り求めることです。クリスチャンであれば、救われた喜びと感謝から、神様に喜ばれる歩みをしたいと願っています。そして、そのような生き方を求めるとき、私たちは祈らざるを得ません。神様のみこころを行えない自分の姿に直面するからです。本当に主によって救われている人は、主に従いたいと願いますし、自分自身がみこころを行う者となれるようにと祈るのです。

もう一つの意味は、神様のみこころがなされ、それを私たちが受け入れますと祈るということです。神様はみこころを行われます。主権を持ってこの世界のすべてをご支配しておられます。すべてのことを働かせて益としてくださいます。クリスチャンは神様が全知全能のお方であり、愛と真実のお方であることを知り、信頼しています。その信頼によって、神様が最善を行われることを受け入れますと神様に申し上げます。

2. 模範

「みこころが行われますように」との祈りの意味を考えると、そのことを心から願うのは、決して簡単ではありません。しかし、主イエス様は「みこころが行われますように」との祈りを教えてくださっただけでなく、ご自身が模範を示されました。ゲツセマネの園での祈りにその完全な模範を見ることができます。

マタイ 26 章 39 節。罪のない神のひとり子が、私たちの身代わりとして十字架にかかり、罪を贖うことが神様のみこころでした。しかし、そのみこころに従うことは非常に大きな苦痛でした。人となられたイエス様にとって、十字架における肉体的な苦痛、精神的な苦痛がどれほどであるか、私たちも少しは想像することができます。それだけでも決して受けたくない苦痛です。さらに、神の御子であるお方にとって、すべての人のすべての罪を負って裁かれ、父なる神様から見捨てられるということがどれほど恐ろしいことであるのか、そのことは私たちには想像もつかないことです。ですから、主イエス様は「できることなら、…過ぎ去らせてください」と祈られました。

しかし、そう祈るだけでなく、イエス様は「わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください」と祈られました。自分を捨てて、文字通りいのちがけで父なる神様のみこころを行うことを祈りました。

26 章 42 節。「あなたのみこころがなりますように」は、主の祈りの「みこころが行われますように」と原語では全く同じことばです。まさに主イエス様はご自身が教えた通りに実践されたのです。

主は私たちにもそれぞれ自分の十字架を負うようにと言われます。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです」(マタイ 16 章 24～25 節)。救われた私たちは主イエス様について行きたいと願います。それでも私たちは完全にされているわけではないので、主のみこころ

よりも自分の思いを行おうとすることがあります。そんな私たちに主はみことばによって、自分を捨て、自分に死んで、ご自身に従うようにと招き、命じ、励ましてくださいます。ですから、私たちも「あなたのみこころがなりますように」と祈って、みこころを行うことができますようにと祈り、みこころを受け入れます祈りたいと願います。

もう一つの模範を主イエス様の母となったマリアのことばに見ることができます。ルカ 1 章 38 節。

突然、御使いが現れて、神様のみこころを告げられました。そのことが起こるならマリアにとって精神的にも社会的にも大変な事態になることが予想できました。しかし、彼女は「みこころがなりますように」と答えました。表現は多少違いますが、同じことです。

このマリアのことばから、大切な態度を教えられます。彼女は「私は主のはしためです」と言っています。神様のしもべとして、神様の言われることに従いますというのです。「どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように」と答えています。神様のみこころが、その通りに自分になりますようにと、自分を献げ、委ねています。

私たちが「みこころが行われますように」と祈るとき、このマリアのような態度で祈ることを教えられます。私たちも神様のしもべです。かつては罪の奴隷でありましたが、キリストの十字架によって代価が払われ、買い取られて、神様のものとされました。神様が主であり、私たちはしもべです。キリストがいのちを捨ててくださったので、私たちは生かされているのです。ですから、「神様のおことばどおり、この身になりますように」と自分を献げることが主に対するふさわしい態度です。

3. みこころを知るには

「みこころが行われますように」と祈るとき、その神様のみこころをどうしたら知ることができるでしょうか。神様のみこころを知らされて、その上で、「みこころが行われますように」と祈ることが私たちにもあります。また、私たちは人生の様々な局面において、神様のみこころを具体的に知る必要に直面します。重要な選択をしなければならないとき、私たちはどのようにみこころを知ることができるでしょうか。

まず覚えておきたいのは、神様のみこころは聖書によって明らかにされているということです。ですから、みこころを知るためには、みことばを学ぶ必要があります。それを基本として考えていくなら、神様のみこころを正しく判断することができるでしょう。

具体的な課題に対するみこころを求めるにあたって、次のいくつかのことを覚えていると助けになります。

まず、その課題を神様の御前で具体的に祈ることです。その時に大事なのが、神様のみこころを示されたら、それに従いますという態度でみこころを求めることです。

そして、神様の導きを期待してみことばに聞いていくことです。礼拝で開かれるみことば、日々のデボーションで開くみことばを通して、主はふさわしい時にふさわしく私たちにお語りくださいます。

また、他の信仰者のアドバイスを聞くことも有効でしょう。時には神様は未信者を用いて、示されることもあります。

そのように、祈りつつ、みことばに聞きつつ、神様のみこころを求めていく中で、みこころを示され、確信を与えられることでしょうか。私たちの内にいてくださる聖霊が導いてくださいます。時にはすぐに分からない、時間をかけても分からないということもあるでしょう。忍耐を学ぶ必要があるかもしれません。具体的にはどのようなようであるとしても、神様は私たちを導いてくださるお方ですから、従おうとして求める者には確かに導きを与えてくださるのです。牧者である主は、ご自身の羊である私たちを導いてくださるのです。

「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」との祈りは、私たち自身が神様のみこころを知ることができ、行うことができるように神様の助けを求める祈りです。また、神様がなされるみこころを受け入れますという祈りです。このような祈りを重ねていくことで、私たち自身がみこころにかなった者へと変えられていくことでしょうか。

進んでみこころを行うことのできる者に変えられるように、喜んでみこころを受け入れる者となるように、祈りましょう。